



2021年6月  
第75号

☎ 111-0052  
東京都台東区柳橋2-22-3  
ウェスレアン・ホーリネス  
神学院  
☎ 03-3851-3762  
FAX 03-3851-3858  
振替口座番号  
00130-4-364534  
名義 ウェスレアン・ホーリネス神学院  
発行人 山崎 忍  
編集人 文カンホ、後藤貴子  
印刷所 ヨベル

## 初心に帰る

教務主任 本間 尊広



いつも神学院を覚えて尊いお祈りとご支援をくださり心より感謝申し上げます。

3月、4月は、神学院にとっ

ては卒業式と入学式が行われる大切な時期です。その時の卒業生や入学生にとって大きな意味を持つことは言うまでもありませんが、そこに参列する一人一人にとっても、自分に向けて語りかけられるみ言葉を通して、献身を新たにできる機会になっていると思います。2020年3月には卒業生がおらず、また新型

コロナ感染症が拡大しはじめた時期であったために、在学生と数名の教師だけで「終了礼拝」を実施したのみでしたので、今年の3月には2年ぶりの卒業式が行われました。

今年も、卒業式と後に続く感謝会で語られる説教、学院長訓示、祝辞、卒業生の言葉を通して、筆者自身も主の前に立つ思いに導かれ、自らの献身を問われ、主に献げて歩む思いをもう一度心に刻み直しました。神学院の卒業式の大きな特色の1つは、後援会から卒業生たちに贈られ

る記念品ではないかと思つていきます。2つの記念品が贈られます。1つは、革表紙の立派な聖書。そしてもう1つはタオルです。

み言葉の奉仕者となる卒業生に聖書が贈られるのはとても理解しやすいことではありますが、タオルという記念品は非常にユニークであります。これから遣わされる教会で少しでも役に立つ日用品をといて贈られるのではありません。遣わされる

先で「どなたかの足を洗う献身者になるように」との祈りが込められたタオルの贈り物なのです。ヨハネによる福音書13章の最後の晩餐における記事で、主イエスは弟子たちの足を洗ってから、「主であり、師である私があなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合うべきである。私があなた

がたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのだ(ヨハネ13・14、15)と言われました。この主の言葉を心に刻むためにタオルが贈られるのです。筆者もかつて卒業式で、そのようにしてタオルをいただきましたが、毎年卒業式でタオル贈呈に立ち会うたびに、必ずしも主のみ言葉の通りに歩むことのできていない自らを省みて、心を新たにします。説教で語られるみ言葉とは違った形でインパクトをもって筆者の心に語りかけるものがあるのが、このタオル贈呈です。

聖書協会共同訳においてコリントの信徒への手紙二13章9節が「私たちが祈っているのは、あなたがたが初心に帰ることです」と訳されています。「初心に帰る」というのは、従来の訳では「完全な者になりなさい」(新共同訳)、「完全になりなさい」(新改訳2017)、「全き者となりなさい」(新改訳、口語訳)と訳されてきた言葉です。このたびの訳ではずいぶん印象が変わります



第32回ウェスレアン・ホーリネス神学院 卒業式(2021年)

が、原語においては、「完全になる」という意味と共に「修理する」「癒す」「本来あるべき姿になる」というような意味を持つ言葉です。ですので、神が望んでおられるあるべき姿になるといふことが、ここで意図されていると理解することができます。

まず主が召してください、それにお応えして、主にお仕えする生涯へと進んでいきます。スタートにおける思いは熱くても、だんだん冷めることもありませう。主が望まれるからという思いで献身したはずが、自分の思いしか見えなくなってしまうことも

あります。だからこそ、神が望んでおられるあるべき姿になるという、初心に帰る時が必要なのであります。「互いに足を洗い合いなさい」と言われた主の言葉によって、初心に帰りたい願います。

◆卒業生の証し◆

「溢れるほどに満たされ、  
なお飢え渴いて」

卒業生 桑原晴美



「私はあなたと共にいる。これが、私があなたを

遣わすしるしである。」出エジプト記3・12。この御言葉の約束が真実であることを、繰り返し繰り返して教えられた4年間であります。

4年前、私はウェスレアン・ホーリネス教団のことも知らず、ジョン・ウェスレーが誰かも知らず、神学院に入学して参りました。入学試験においてもホーリネ

スとはの質問に、「聖潔のしおり」の丸暗記した数行をそのまま書き、面接で質問された時に、実はホーリネスが何かわかっていまいせんと答えたことを覚えていません。もし、この神学院に入学していなかったら、私のホーリネスを求める心は眠ったままだったかもしれません。

この4年間、神学院の先生方のご人格を通して、また派遣や奉仕でお会いした教団の先生方、信徒の方々のお姿を通して、ホーリネスとは何かを考えさせられ、飢え渴きを起こさせて頂きました。心から感謝致します。

神学院生活は様々な試みがあります。ここまで人は多様性があるのかと、びつくりすることもありました。自身の欠けも赦して頂いて、時に戦場、時に天国の、愛する方々との4年間でした。ですから神学院を卒業することは、先生方や学生との交わりを思うと寂しさもありますが、遣わされて行く先にも愛する方々が待つておられることは喜びであり感謝です。

この4月からは、伝道師として

母教会である東京若枝教会に遣わされて参ります。

今から20数年前救われてすぐに、伝道者になってどこかに遣わされて行きたいという思いが与えられました。しかし、自分の考えた計画が最善と思つてことを運んでいたもので、こんなに年数が経つてしまいました。神様の摂理のうちに東京若枝教会に導かれ、洗礼を授けて頂いた飯塚俊雄先生の下でお仕えすることになり、共に祈り支え合ってきた兄弟姉妹たちと、力を合わせて神様の栄光のために働けることを、今、心から嬉しく思います。

またウェスレアン・ホーリネス教団の教師として送り出して頂けることは私にとって神様からの大きなプレゼントです。このことにより、教団のために祈り仕える使命も与えられたと思つています。

受難週、十字架のメッセージを聞いた時、バラバはただ罪を赦されたのではなく贖われたのだという一文が心に残りました。私たちの罪の身代わりがイエス・キリストの十字架だとは、なんと私たちの罪は重く、またなんと私たち

は神に愛されているのでしようか。主イエスの十字架と復活によって、ホーリネスを生きたことが出来る者とされたことはなんという恵みでしょうか。

この福音を、人の心に届く言葉を持つて伝えたい、自分など到底無理だとあきらめている人達にホーリネスを求める心と呼び覚ましたい、これが目下のところの願いであります。

この4年間、先生方、信徒の方々が私たち神学生のために祈り、溢れるほどに捧げて下さいました。乏しいことは一度もありませんでした。心から感謝致します。今溢れるほどに満たされ、しかなお飢え渴いて神を求めて、新たな歩みを踏み出せることを心より嬉しく思います。

「ひびだらけのわたしですが、すべてをゆだねて」

卒業生 柳テヒヨソ

「人間の心は自分の道のことになり、思いを巡らす。主がその一歩を確かなものとする。」(箴言16:9)



私は母の祈りと主の導きによって神学院に

導かれました。自分がこの道を歩むのにふさわしいか、様々な思いを抱えて神学院に入りました。神様はわたしのことをよく知っておられ、良き仲間たちを与えてくださり、モーセにアロンがあつたように、パウロにバルナバがあつたように、神様は同級生として桑原晴美さんを備えてくださり、言葉のことや、生活のことなど、彼女にたくさんお世話になりました。また先輩たち、後輩たちに支えられて日々守られて歩むことができました。足りない私を愛し、よく支えてくださった仲間たちにこの場を借りて感謝を伝えたいと思います。またこの私のために祈ってください、絶えず励ましてくださった神学院の先生方に感謝を申し上げます。そして、昼夜私のために祈り、応援し、支えてくれた家族に心から感謝しています。ありがとうございました。

神学院の4年間の歩み、私の人

生にとって忘れられない時間でした。神学の勉強は自分にはなかなか難しく授業についていけないこともあり、課題もちゃんと出せない時もありました。たくさん先生の先生方にご迷惑をかけました。自分の賜物は、勉強するより、体を使って奉仕をしたり、賛美をしたり、料理をして人々を喜ばせるのが、得意で楽しかったです。神学生の身分を忘れ、神学院料理長のような感じで生活したこともありました。自分がこのままでもありました。自分が正しいだろうかと不安になり、辞めたい時もありました。しかし聖書のローマ書11章29節に「神の賜物と招きは取り消されることがないからです。」と書かれてありました。自分がこのままで大丈夫だろうかと不安と心配、恐れを抱えている私に神様は、「わたしがあなたを招いた」と語られている感じがしました。未熟で、足りない私ですが、すべて主にゆだねて歩むことを決心し、卒業を迎えたのです。

今私は山形南部教会の教育主事として招聘され働いています。ひびだらけの私、相変わらず不安

と恐れをもっている私ですが、すべて主にゆだねて歩みたいと思います。今まで私のために祈ってください、支えてくださった多くの方々に心から感謝いたします。(柳テヒヨソ先生から文カンホが聞き取って作文しました)

### ◆新入生の証し◆

神学院入学に導かれて

1年 細井一広



このたびに神学院に入学しました、細井一広と

申します。多くの方々のお祈り、御支援を支えられ、神学生としての歩みをスタートできました。とを、心から主に感謝いたします。

私は小学校1年生から教会学校に通い始め、恵みにより40年以上、信仰生活を続けさせていただけでおります。大学生の時に初めて献身を意識するようになってから、人生の節目ごとに献身の思



第33回ウェスレアン・ホーリネス神学院 入学式(2021年)

しながらでも、何か神様に仕える働きができないものかと考えるようになってきました。

いよいよでしたが、その時々で、実際に決断するには至りませんでした。

今回、献身の決断に至ったきっかけは、2年前の元旦から始めた聖書通読になります。妻が1年間の通読プログラムに挑戦したのを機に、私も共に挑戦することになりました。後に通読と並行して聖書の学びも行うようになり、それまでの信仰生活ではよく見えていなかった聖書の世界がどんどん広がっていくように感じました。そして、ゆくゆくは仕事を

断つて祈るように示されました。示された祈りは、もし、帰国して献身することが御心ならもう一切の受注は必要ありません、そうでないなら必要なお客様を与えてください、という内容でした。その祈りに神様は応えてくださいました。その後、見事に受注が来なくなっただけでなく、既においたいただいた予約もキャンセルとなり、献身することが御心だと

はつきり確信するに至りました。「神の前で、そして生きている者と死んだ者とを裁かれるキリスト・イエスの前で、その出現と御国を思い、私は厳かに命じます。御言葉を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを続けなさい。忍耐と教えを尽くして、とがめ、戒め、勧めなさい。」(マテ 5:20-41、2)

その後、右記の御言葉が与えられ、献身の思いをより強くさせてくださいたいと思います。主イエスの再臨と御国を待ち望む中、今後私たちにどれだけの時が与えられているのかわかりません。一日一日、折が良くても悪くても、御言葉を宣べ伝え続けることができよう、そして、神学院での学びと訓練を経て、忍耐強く十分に教えることができる伝道者を目指し、残る生涯を神様にささげたく決意する次第です。

日本には無い苦労と戦いながらも、のんびりとした海外生活に慣れ切った身としては、神学院での学びや奉仕等はなかなかハードではありますが、神様と共に、皆様に支えられながら、一歩ずつ

前進できればと願っております。引き続き、お祈りの御支援をいただければ幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

◆在校生の証し◆

御言葉で送り出された新年度



2年 松本麻椰

新年度に際して活に大きな変化がありました。

た。この3月に淀橋寮から浅草橋の神学院寮へ引っ越し、また奉仕教会も淀橋教会から八潮キリスト教会になりました。10歳頃から長年お世話になっていた淀橋教会を離れるというところで、年度末は別れの寂しさと不安でいっぱいになる時が度々ありましたが、ある早天祈祷会のメッセージで御言葉によって励まされました。「神はあらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも

神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。」(コリント二1・4)と「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であつて勝利を与えられる。」(ゼファニヤ3:17)によって、神様が今まで共にいて慰められてきたこと、そして今度は人々を慰めるものとしてくださるのだ、と分かり、小さなこの者を遣わしてくださる神様への感謝と期待が与えられました。

4月からは埼玉県の八潮キリスト教会で、イースターのかわいらしい装飾がなされた素敵なお会堂で礼拝しご奉仕させていただきました。新しい装飾がなされた素敵なお会堂で礼拝しご奉仕させていただきました。新しい装飾がなされた素敵なお会堂で礼拝しご奉仕させていただきました。新しい装飾がなされた素敵なお会堂で礼拝しご奉仕させていただきました。

### 御言葉の真実と力への信頼

3年 黒木真葉



「聖書はすべて神の靈感を受けて書かれたもので、人を教え、戒め、矯正し、義に基づいて訓練するために有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い行いをもできるように、十分に整えられるのです。」(テモテ二3・16-17)

神学院での学びも折り返し地点を過ぎました。今年度は御言葉の真実と力にますます信頼していきたくと思わされています。改めて、神の御言葉は私の全てであると思います。御言葉によって、ここまでの歩みは支えられ、導かれてきました。今も日々御言葉に生かされ、これからは御言葉を宣べ伝える者として御言葉にお仕えして地上での歩みを全うしたいと願っています。そのことを思うと、もっと御言葉を求め、養われ、御言葉に生きる恵みを知りたい、知る必要があると感じました。御言葉を蓄え、御言葉と格闘し、与えられた御言葉に大胆に従い行動し、自分の考えではなく御

言葉を第一とした時に主のなさる御業を見せていただきたく思います。身をもって経験し、確信を与えられた御言葉の力を、切実さをもつてお伝えできる者になりたいと願っています。このことさえも自分の力では思えません。共におられる聖霊様に御導きと御助けを求めて、御言葉への信頼を日々増し加えていただきたいと思っています。

### 「新年度を迎えて」

4年 岡 聖志



神学院に入學してから早くも3年が過ぎ、4

年目の学びの時が始まりました。自分でも信じられない思いです。忙しさが増す日々の中で、神様の御心は何かを祈りながら選び取っていくことの大切さを教えられていきます。誰かを喜ばせたい、励ましたいと思ひ、そのため

に一生懸命働くこと、それ自体は決して間違ひではありません。でもそのような中で、忙しさのうち

自分を見失い、さらには神様を見失ってしまうことも起こりうるのだと、だからこそいつも神様に目を向けて、御声に耳を傾けていく必要があるのだと気づかされています。

また、へりくだることの大切さも教えられています。自分の内を見るとき、誇れるものは何もありません。それでも、自分が何かを持っているかのように錯覚し、神様の働きを自分の力でなさうとしてしまう時があります。そしてうまうまかかったとき、神様に祈るよりも、自分を責め、落ち込むのです。それは一見謙遜にも見えませんが、実際は自分の力に頼ろうとする高慢の結果です。語ることより聞くことを、高められることよりへりくだることを、いつも求めていきたいと思わされています。

「耳を傾け、私のところに来るがよい。聞け。そうすればあなたがたの魂は生きる。」(イザヤ55:3) 「主よ、お話しください。僕は聞いております。」(サムエル記上3:9)

単純な信仰に立つ

4年 船津悠大



4年生になりました。学年を重ねるにつれ、

神様に仕えるため、準備されるべき課題がたくさん見えてきます。表面的には自分が神様の働きをしているようで、実際は神様が共に歩み、恵みを注ぎ続けてくださっていることを忘れてはならないと実感しています。

卒業を間近にして、神様の福音の力を信じる重要性を改めて思います。ついつい自分の知識、経験、人柄に頼ってしまいます。終わってみると、何とも言えない無力感、敗北感を味わいます。弱く傷つきやすい自分を隠すために、知識や経験で武装しようとしてしまうのは、本当のところ、御言葉の力、祈りの力、福音の力を信じていないからかもしれません。聖書は力強くはつきりと宣言

しています。「福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力です。」(ローマ1・16)弱い自分を自分で強くしようとするのではなく、そのような自分をさえ神様に委ねる時、私を通して神様の御業がなされていくのでしょうか。つべこべ言っていないで、まず祈りと御言葉に、神様御自身に頼る。そのような単純な信仰に立たせていただきました。

必要な学びと訓練を修めることができるように。何よりも、この単純な信仰にしっかりと立つて卒業できるように。お祈りお願いします。

◆神学院オリエンテーション◆

春のオリエンテーション報告

神学院講師 山田証一



昨年から講師を務め、あらためて神

学院の入学式は毎年恒例の行事ではない、その年々の神の憐みによる恵みなのだ、シミジミ実感するようになりました。だって献身者が与えられ、準備の道を歩み始めるという大きな決断の時なのですから！

午後の定例の「ガイダンス」では、学院長・教務により、事務的な伝達事項の中にも、献身者としての大切な心得、姿勢が示されます。「全体コイノニア」では各学年の節目の証し、特に新入生の細井兄の献身から入学に導かれた経緯をジックリ聞くことができました。

二日目、今回のオリエンテーションの目玉？「先生聞きたいです！」のフリートークの時間。先生方にQ&Aで、ふだんはなかなか聞きにくい質問を投げかけて必ず答えるコーナー。「伝道者牧師になって良かったと思うのはどんなとき？」「ストレスはどうしている？お休みは？」「一番ソラかったことは？」等。参加した先生方からのコメントが途切れなほど盛り上がりました。今回の学びはヘンリ・ナアウエ

ンの『イエスの御名で』(※残念ながら絶版。3回の学びと霊想の締めくりは桑原先生が御用してくださいました。「神の愛の通路となるため、自らの無力さを認め、へりくだり、主の導かれる所に喜んでついていく、両手を伸ばしてイエスさまを求めめるリーダーが必要」、「聖書のリーダーは日々の中で祈りによってこそ霊性が養われる」と、桑原先生の長年の伝道者生涯を分かち合うように語りかけ、学生も教師も共に立ち上がりました。

コロナ禍で行事も制約がありますが、恵みの豊かさは例年に劣らない、春学期のスタートでした。神学院の営みと学生の修練のため絶えずお祈りを願います。

◆予約献金のお願い◆

神学院では、毎年年会時における予約献金、神学院デー献金、また個人、団体献金に支えられ運営を続けております。

今年度も対面での年会が出来ず、書面で予約献金をお願いしています。既に予約献金の申し込み

をしてくださった教会の皆様により感謝を申し上げます。これからご検討くださる教会と皆様、宜しくお願いいたします。昨年も神学院の働きが守られました。今年もこの紙面を通して、予約献金をお願いするのをご理解ください。近年、神学院のオンラインでの働きが増えている中、オンラインシステムを整えるため、機械の購入と設置などが増えています。また学生数の減少や、寮の老朽化した備品の交換等もあります。教団の将来の伝道者育成機関である神学院運営のために、更に祈り、お献げいただければ感謝です。

### ◆編集後記◆

神学院のためにお祈りとお支えを心から感謝します。2021年3月に2名の卒業生を送り出し、4月には1名の新入生が与えられ、新年度が始まりました。昨年と同じく今年も新型コロナウイルスの影響により、少数の教師と生徒が卒業式と入学式に参加し、1年の恵みを感じ、新たな歩みをゆだねつつスタートしました。

したが、YouTube 動画のライブ配信を通して参加された方々が多くおられ、喜び恵みあふれる卒業式、入学式を執り行うことができました。

神学院は主に多数の授業を、スカイプ、ZOOM などで行っています。実際顔を合わせて行う授業が何よりも良いですが、画面に顔を大きく映して行う授業もまた、親しみが味わえると感じています。親の癒しと憐れみがこの世を覆い包んで一日も早くすべてが回復されるように祈る次第であります。万事を益としてくださる神様の恵みが、神学院に豊かに注がれますように、どうぞ心を合わせてお祈りくだされば幸いです。

今回の神学院便り第75号では、教務主任の本間尊広先生の巻頭言、新入生、細井一広神学生の証し、卒業生の感謝の証し、在校生からの新年度に向けての抱負、山田証一先生のオリエンテーション報告、そして、献金者一覧を掲載させていただきました。

神学生は、前期授業終了、試験の後、7月の関東夏期聖会より、夏期伝道期間に入ります。新型コロナ

ナウィルスの影響によって聖会および夏期伝道は、変更になることもありますが、それぞれの霊性、健康が守られ、成長される時を過ごすように、また、派遣される諸教

会に主の豊かな祝福がありますようにお祈りください。この神学院だよりを読んでいるすべての兄弟姉妹の上に真の平安がありますようにお祈りいたします。

## ウェスレアン・ホーリネス神学院入試要綱



- 大学・短大卒業もしくはそれと同等の学力を有すると認められた者
- プロテスタント教会に所属し、受洗後2年以上の者
- 専心宣教教会の業に仕える明確な召命感を持ち、このために献身し、牧師の推薦を受けている者

以下の書類を整え、本学院事務所に郵送または持参してください。なお神学院所定の用紙はホームページにもありますので取り寄せてください(①～⑤は学院所定)

- ①入学願書 ②履歴書 ③信仰歴 ④所属教会牧師の推薦状 ⑤召命に関する短文(400字×3枚程度) ⑥最終学校卒業証明書 ⑦同成績証明書 ⑧健康診断書

- 第1回 2021年 11月 16日(火) 試験科目: 聖書、英語、ホーリネス  
 第2回 2022年 2月 15日(火) 試験科目: 聖書、英語、ホーリネス  
 第3回 2022年 3月 8日(火) 試験科目: 聖書、英語、ホーリネス

入学金: 50,000円/授業料: 年額 230,000円/寮費: 月額 5,000円/  
 食費: 月額 15,000円

- 上記の外に研修費・教材費があります。※寮費・食費はその時の事情で変動することがあります。

### ウェスレアン・ホーリネス神学院

連絡先: 〒111-0052 東京都台東区柳橋2-22-3 TEL 03 (3851) 3762  
 詳しくはホームページをご覧ください <https://whseminary.jimdo.com/>